

DOJIN  
R18  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止



# TRUE END

トゥルーエンド



**GFF**

# TRUE END

トゥルーエンド



バッドエンド王国との戦いが終わって一年が経った  
あたしたちスマイルプリキュアの五人は  
プリキュアとしての役目を終えて平和に暮らしている…  
でも私達の日常は一年前とは大きく変わってしまった

プリキュアに変身しなくなってから  
あたしたちの身体がおかしくなりはじめた  
胸が大きくなったり、お尻が大きくなったり…  
あたしたちの身体は急激に大人の身体に  
変化していった…あたしはその変化に戸惑った

歩いてるだけでいろんな人に  
胸やお尻をジロジロ見られるようになった  
男の人だけじゃなく、同級生の女の子や  
先生からも変な目で見られた  
あたしはそれが嫌で嫌でしようがなかった

でも他のみんな…みゆきちゃん、あかね、やよいちゃん  
れいかは…身体と一緒に心も大人になっていたみたい  
みんなは男の人とよく遊ぶようになった…大人の男の人とだ  
駅前とかに行つて知らない男の人と一緒に町外れのホテルとかに  
行つてみるみたい…そこで何をしているかは知らない  
あたしはそんな…急に変わってしまったみんなが怖くて…何も言えなかった  
怖くて…それに汚らしい感じがして…嫌だった

…あたしだけがみんなと違う…  
あたしだけが…一箇所おかしくなってしまった「部分」があった

おっ緑川じゃん  
相変わらずエロい  
カラダしてるよな

マジ〇学生の  
カラダじゃねーよ  
ヤリてえ

あっヤリマン軍団  
今日は学校来てるんだ

ヤリマン軍団でも  
緑川さんだけはいつも  
学校来てるわね  
変なとこで真面目よね  
ヤリマンのくせに

んん

たあ

身体が大人になってしはらくして…  
あたしのアソコに「それ」が生えてきた  
弟や：父親のよりも大きいおちんちんだ  
これが生えてからはもう弟や妹と一緒に風呂に入れなくなった  
変な目で身体を見られることよりもあたしのアソコに  
この気持ち悪いものが生えてるのが辛かった  
あたしは気持ち悪くて生えてきたおちんちんに  
一度も触つたことがない…  
お風呂でも軽く流すだけで済ましていた

問題はトイレの時だ  
おちんちんが生えてからおしっこも  
そつちから出るようになった  
おしっこが流れるとホースみたいにおちんちんが  
揺れておしっこがあちこちに飛んでしまう

おちんちんに触れないあたしはいつも  
おしっこをこぼしてしまっていた  
家族をこまかすのも無理が出てきて  
おしっこはなるべく学校ですることにした  
こぼれたおしっこはいつも掃除していたけど学校では  
他の子が来てしまつてその場から逃げたことが何度かある  
最近トイレをキレイに使うように先生が  
注意を呼びかけてるのは多分あたしのせいだ…

ズルッ

あつ…や…つ  
また…!!

くそっ…  
止まれ…!!





トイレで会った女の子に  
おちんちんを見られてしまったあたしは  
彼女の言うことを聞くように脅された  
今あたしは彼女が呼んだ車でホテルに連れ込まれた  
ホテルには数人の男の人が待っていた  
「なおちゃんって言ったかな  
チンポのことで悩んでるんだって？」

「…は…はい……」  
男の人達はあたしの悩みを解消してくれると言った  
…嘘に決まってる…あたしは知っていた  
このホテルはあかねやれいか達が  
使っていたようないかわしいホテルだ  
あたしにいやらしいことをするつもりなんだ  
「じゃあスカートを…あれワンピースなんだ  
じゃあ上脱いじゃってよ」  
「…はい……」

「へえ、ほんと〇学生とは思えない  
スタイルだね…ブラはしてないの？」  
「…ブラジャーは…お金がなくて……」  
「この大きさをノーブラじゃいろいろ  
大変でしょう？今度お兄さんが買ってあげるよ  
ほら、それじゃもつと脚開いてよく見せて」  
あたしは男の人達のいうことに素直に従った  
逆らうと何をされるかわからないから…それだけじゃなかった  
この人達が本当にあたしの悩みを解決してくれる…  
そんな予感があったから…

おちんちんと立派な  
チンポがついてるね  
お兄さんのより大きい  
かもしれないよ

自分で触ったことも  
ないんだって？  
それじゃまだ精通も  
してないのかな？

せいっう…？  
わからないです…

そっかそっか…  
それじゃお兄さんが  
ちゃんと教えてあげるよ





「あ…やつ…」

「ああ、ごめんごめん…なおちゃん自分のチンポも  
気持ち悪くてロクに触ったことなかったんだもんね  
急に男のチンポ見せられても怖かったよね  
でもいつかは慣れなくちゃね…これを着けて」

「…目隠し…はい…」

「これで少しは怖くなくなっただろ…」

「…はい…少しは…」

目に見えなくても大人の男の人のおちんちんの  
ニオイや熱を感じた…目で見るとより

おちんちん…チンポの本質を感じる気がする…

「触ってごらん…なおちゃん」

「はい…あつ…熱い…」

熱くて硬い…いつもはふにゃふにゃなのに  
こんなになるものなの…あたしのも…

「チンポは興奮するところなる…勃起っていうんだ」

「ほっき…」

「それじゃあそのまま握って…前後に動かしてみて」

「はい…あ…うっ…」

「気持ち悪かったらやめてもいいからね  
なおちゃんのペースで動かしてみて」

「大丈夫です…あ…脈打って…すこい…」

シクッ

シクッ

シクッ

シクッ

ひん

ひん

ひん

あー気持ちいいよ  
なおちゃん  
その調子その調子

は…は…

「そろそろ射精すよなおちゃんっ…」

「えっ？出すって何を…きゃっ！」

「これは精液だよなおちゃんが  
気持ちよくしてくれたからチンポが射精できたんだ」

「これが射精…でも射精って…その…  
エッチしないでできないんじゃ…」

「チンポが気持ちよくなれば精液は出るのさ…それにしても  
なおちゃん精液かけられるのはそんなに嫌じゃないんだね？」

「えっ…あ…っ！」

確かに触るのも嫌だったチンポを  
気づいたら夢中で扱っていた  
そこから出たものを顔や胸にかけられて  
嫌がるどころか…ドキドキしていた…

身体が…熱い…なんなのこれ…

「なおちゃんもうビンビンだね」

「ビンビン…？」

「なおちゃんのチンポも勃起してるってことさ  
チンポ扱いて精液かけられて興奮しちゃったんだね」

言われてはじめて気がついた  
目隠してわからないけど、スパッツの中で痛いほど  
チンポが勃起しているのがわかった

「…興奮なんてしてませんっ！…そんなこと…！」

「カラダは正直だよ  
…なおちゃんもチンポ気持ちよくしてみたくない？」



はあ

ひゃっ

はー！

は、

はあ

は、

はあ

んん

はー！

は、

はあ





「はあーっ…はあっ…これ邪魔っ…！  
あれ…あたし…なんでプリキュアに…」  
「ちよっどー勝手に目隠し  
撮ってんじやないわよ  
マジのプリキュアなら  
まだまだお金に…きやつー！」  
「…もっど…もっどしたい…！  
チンポ…セックスら…っ！  
…服…邪魔あつ！」

いびんっ

「きゃああああああああああつ！  
ちよっ…こいつ…離してっーそんなチンポ  
入るわけなっ…ひぎっ！いきいいいいっ！  
痛いっ！いっだいいいいいいっ！  
みっ…見てないで助けてよおっ！  
こいつおかしくなってるっーあぎいっ！」  
「いやいやプリキュア相手じゃ力づくで  
どうにもできねーだろ…」  
「まあそいつもスッキリすれば  
解放してくれるだろ…何発出すのかも  
想像できねーけど…」  
「そ…そんな…きひいいいっーやめ…  
こ…壊れるっ！オマンコ壊れるっうっ！」

いびんっ

ふうっ♥ふうっ♥  
ちんぽっ♥ちんぽっ♥  
きもちいいっ♥いいっ♥

あっ♥あーっ♥あっ♥  
また出るっ♥出るっ♥  
あゝっ♥あっ♥あっ♥

さっきよりすでいっ♥  
自分で動いたほうがっ♥  
いいっ♥セックスっ♥  
オマンコいいっ♥

ひでーな…気絶してる  
人間をオナホ扱いだぜ  
発情プリキュアこえー

たっ  
たっ

「おっ…気がついたなおちゃんっ？」

「あれ…あたし…なにを…」

「ひっ…なに…この身体…また大きく…」

「なんだあんまり覚えてないの？」

「ほら、これにちゃんと撮れてるから

見てっくらんよ」

「撮れ…えっ…嘘…っ…ああ…あ…っ…」

「なんで…なんでっ…」

「なんでっ…そりゃ脅すためでしょ

ふたなりでスタイル抜群の

○学生って紹介されたから準備して

きたんだけど思わぬ収穫だよね

まさか本物のプリキュアなんてね」

「嘘…嘘…ひっ…ひっ…ひっ…よ…」

むちっ

たぷっ

ドロ…

「そんなこと言っ

なおちゃんこそ酷いっしょ

何時間あつて「犯」ったと思ってるのっ

ほら見る…この動画…

もっの「G」のオマン「種」る物」なるなるよっ」

「…っ…あれは…身体が…勝手に」

プリキュア」なっつたのも勝手に」

あたし…あたし何もわからなっ…」

「H」の「P」キュアが○半生を「イン」

わからなっしゅ「済」まされなるよね」

「…っ…っ…ひっ…ひっ…っ…っ…っ…」

こんな身体…こんな身体」なるへららなら

プリキュア」なんてならなければよかつた」

うっ…っ…あああああああんっ…」

たぷっ



プリキュアに変身して更に成長してしまった  
この身体じゃ服もまともに着れなかった  
あたしはこの身体を見られないため学校にも行かず  
部屋から出ずに引きこもっている…  
家族みんなが心配したけどあたしは何も話せなかった  
あの男が言うようにあたしが自分を抑えられなかったことが  
そもそもの原因な気がしていたから話せなかった

閉じこもった部屋の中であたしは最初  
泣いたり途方に暮れたりしていた…でも今は違う  
チンポがそんな気持ちを許してくれなかった  
一度射精の味を知ってしまったあたしは  
勃起してしまったチンポをしごくことをやめられなかった  
締め切られた部屋はあたしのチンポの三オイが充満して  
その三オイが更にあたしを興奮させた  
チンポに夢中になればなるほど心の中には後悔や悲しみ…  
暗い気持ちが消えていった  
でもすぐに自分の手じゃ満足できなくなった  
オマンコにチンポを挿入したい…セックスがしたい…  
もっと気持ちよくなりたい…！そんなことばかり考えるようになった  
今ではあの男があたしに持たせた携帯に連絡が来るのが  
待ち遠しくてしかたない…



男から連絡がきてあたしはアダルトビデオに出ることになった家の前に車で迎えに来てくれたから近所の人にあたしの身体を見られることはなかった…これからアダルトビデオに出るのに…一応あたしだとわからないようにしてくれらしいけどどこまで信用できるかはわからない

それでもあたしに断ったりする権利はない…断るつもりもなかった連絡が来た時にはあたしの頭はおかしくなる寸前でこのままだとまた女の人を襲ってしまいそうだったから…

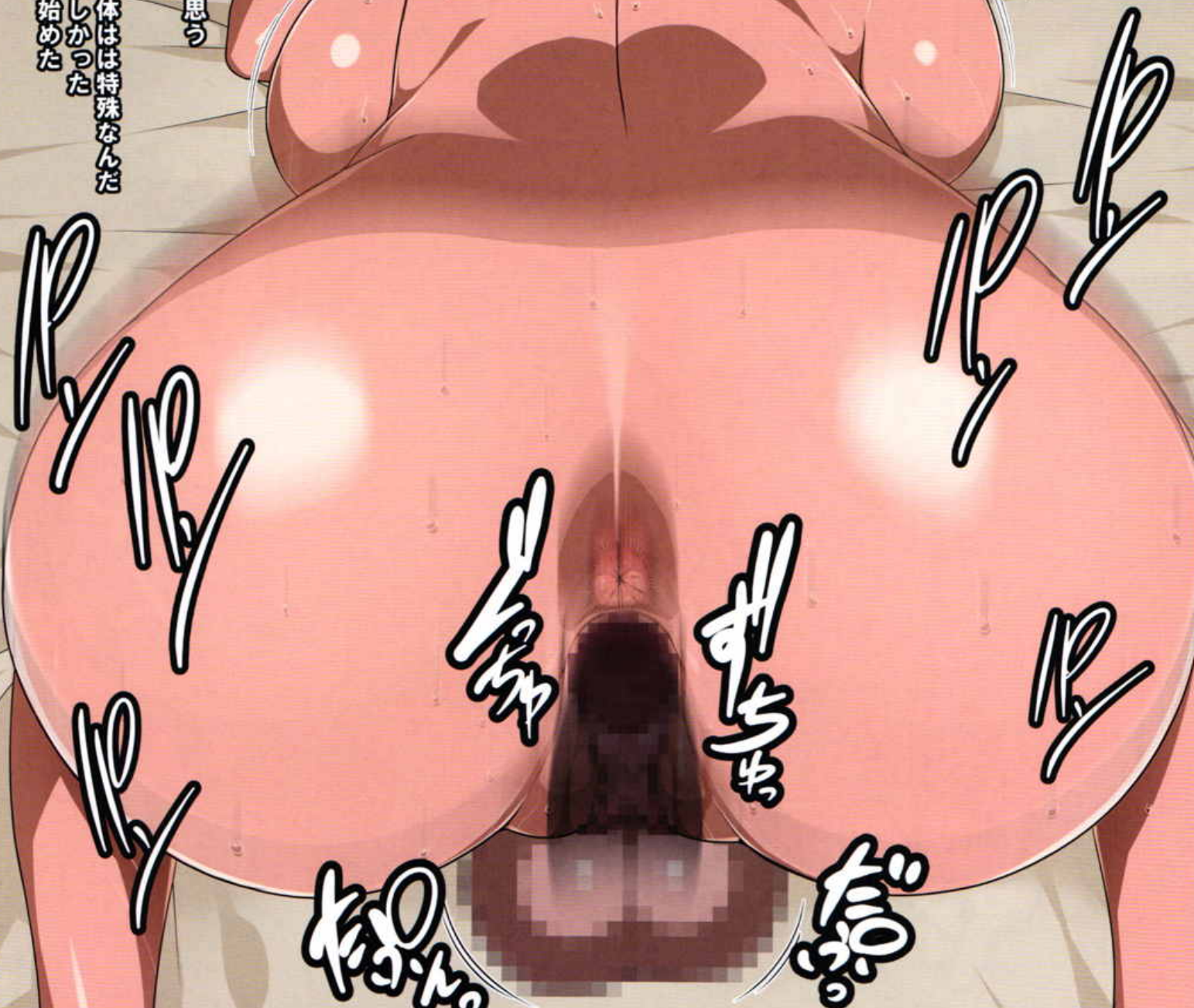
撮影現場に着くとすぐに裸にさせられたこれから何が起るのか、されるのか想像しただけで顔が熱くなるほど興奮して沢山の男の人達の前で裸になっても恥ずかしさはあんまり感じなかった表紙の撮影中に緊張で笑顔が硬いと言われたけど本当はもっといやらしい顔をしてしまうのが怖かったから我慢していただけだった…チンポが勃起してきちゃってたから隠していてもあたしの本心は伝わっていたかもしれない





映像の撮影がはじまって知らない男の人に指示されるまま  
あたしは股を開いてオマンコの方を弄られた  
チンポが生えるまでオナニーなんてしたことなかったし  
チンポが生えてホテルでの一件があつてからもチンポでしか  
オナニーはしたことなかった…だからプロの人の指は  
はじめてのあたしのオマンコも簡単に  
トロトロにしてみました  
オマンコに反応してチンポが完全に勃起して  
チンポも少し弄られた…あたしはずっと  
射精を我慢するのに必死だった

オマンコ、チンポにつづいておっぱいも優しく  
弄られてあたしは全身をその男の人に掌握された  
そのままあたしはその人にファーストキスを捧げた  
ファーストキスには特になにも感じなかった  
それよりももうオマンコがもうぐちよぐちよで  
処女なのにチンポが欲しくてたまらなかつた  
きつと他のプリキュアだったみんなも同じだったんだらう  
もっぺいか達に対する嫌悪感は消えていた…  
チンポが生える分多分あたしの方がその欲求が強かつたと思う  
あたしは自分から男の人におしりを向けてチンポを催促した  
男の人はチンポをあたしのオマンコにゆっくり挿入した  
はじめてなのに痛みは感じなかつた…やっぱりあたし達の身体は特殊なんだ  
チンポを受け入れることに快感しか感じなかつた…それが嬉しかつた  
あたしが感じているのを察すると男の人が激しく腰を動かし始めた



「はっ♡くるっ♡くるっ♡くるっ♡くるっ♡  
またきちゃうっ♡はっ♡はっ♡はっ♡はっ♡あはあはあはあはっ♡  
「んっもっイキそうっいいいよ好きにイっ…  
あれ…なんだこの子…っうわっ!」  
「あはあはあはっ♡ひっ♡またプリキュアになっちゃったあ♡  
でも今度はっ♡ 制御っ…できてるううっ♡  
はっ♡はははははっ♡すこいっ♡さっきまでと比べ物にならないっ♡  
プリキュアセックス超きもちいいいいいいっ♡」  
「すっけ…冗談かと思ってたら本当に変身した…  
身体も更にムチムチになってるし…マシコの締め付けもすげえっ…  
なおちゃんっ…俺もイクっ…中に出すよっ!」

「なおじゃないですうっ♡今のあたしはキュアマーチっ♡  
きてきてきてえっ♡処女だったキュアオマシコに初中出っ♡  
あたしも出るっ♡キュア精液でっ♡後ろからハコハコされてチンポが  
おっぱいにすぼすぼむにゅにゅしておほおほおほおほおっ♡」

ああ…なんて幸せなんだろっ♡きつとこれが本当の  
プリキュアの力の使い方だったんだ…  
こんな身体になって最低だと思っただけがハカだった  
プリキュアの力はあたしの本当の願望を叶えてくれたんだ♡  
ならあたしはこの身体でいっばいっばいっばい幸せにならなきゃ…♡



はっ♡

はっ♡

はっ♡

「はっ♡はあっ♡もっ♡もっ♡とあっ♡  
もっ♡と精液出してえっ♡」  
「うっくっ…もう限界だっつ…」  
監督っ…交代お願いしますっ…!!」  
「もう五人目だよ…こんな淫乱じゃ  
プリキュアのイメージ崩れちゃうな」  
「あっはああっ♡」  
でもこれが本当のあたしなのおっ♡  
いっぱいセックスしていっぱい射精して  
いっぱい気持ちよくなりたっ♡  
それだけえっ♡あたしが今プリキュアとして  
やることはそれだけなのおっ♡  
ほらほらあっ!もっ♡と腰使っつてえっ♡  
そんなんじやあたしのキュアマンコ  
孕ませられないよっ♡」



オマンコに三十回くらい中出ししてもらって  
チンポで同じくらい射精して少し落ち着いたあたしは  
映像撮影は十分と言われて改めて表紙撮影をさせられた  
このビデオを見てくれた人がオナニーしてくれ  
と思うとチンポがキンキンになって尿道に残っていた  
精液がチンポの先っぽから少し出てきた

あたしはこの写真を見てくれた人が一目で  
チンポを勃起させてビデオを買ってくれるような  
とびっきりのいやらしいポーズをした  
一人でも多くの人にあたしのカラダを  
見てもらいたい…あたしのチンポを…おっぱいを…  
オマンコを…イキ狂っているとこを見て欲しいな…♡



前回フリキュアに変身してから  
あたしはようやく正気に戻ることができた  
こんなに素敵なカラダになれたのに  
それを嫌って必死に隠して生活していたなんて  
あたしは本当にバカだった…  
みんなみたいにすればあたしももっと早く  
今みたいな幸せな気持ちになれたのに…

あれ緑川だよな…  
なんだあのカラダ…

えっ…なに整形？  
キモっ…ひくわー

股間のあれ…  
チンコだよな…  
どういう冗談？

作り物だよな？  
やたらリアルだけに  
でかすぎるし…

最近AVの撮影とかで家にはずっと帰ってないし  
学校にも行ってない…もうそういうことはどうでもいい  
今日は久々の登校…他のフリキュアのみんなが  
学校に来ないうちにおきたいことがあるから…  
もう前みたいにもじもじする必要もない  
スハツでチンポを隠したりもしない…  
もっとももうスハツなんかじゃ隠せない  
大きさに成長したけど

歩いてるだけでいろいろな視線を感じる  
あたしの人間離れしたおっぱいを…  
あるはずのないチンポを見て興奮したり蔑んだりする  
気持ちか伝わってくる…それがたまらなく気持ちいい…  
どの男の人にもチンポが生えてどの女の人にも  
オマンコがついてる…ああ…考えただけでたまらない…  
それを今日は残さず楽しみたいと思ってる

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

学校につくと佐々木先生に生徒指導室に呼び出された  
あたしがチンポを丸出しているのが気に入らなかつたらしい

先生はあたしのチンポが偽物の飾りだと思つたのか  
握って取ろうとしたけどそのときの感触で

本物だと気づいたみたい：先生は慌てて手を離れた  
先生の顔が赤くなつていたので

あたしはチンポを勃起させてみた  
こうしてセックスの気持ちよさを知つてから

美人の佐々木先生を見るとあたしも  
ムラムラしてしようがなかつた

先生もあたしの勃起したチンポを見てますます  
顔を赤くしてくれた

きつと先生もあたしのチンポが欲しいんだ  
あの歳でまだ結婚してない先生はきつとチンポに

飢えてるに違いない：だつたらあたしが先生を  
ハッピーにしてあげなきゃ：♡

あたしは先生を押し倒してチンポを  
挿入してあげようとした

先生は恥ずかしがつて抵抗したけど  
今のあたしは変身しなくても

プリキュア並の力を出せたから  
服を破いて組み敷いた

先生のオトナのマンコは  
あのギャルの子のマンコと違つた

気持ちよさがあつてすぐ射精しちゃつた♡  
先生のお腹があたしの精液でブクブク風船みたいに膨らんだ

先生は泣くほど喜んでくれた：喜び過ぎて失神しちゃつたけど  
あたしの子供妊娠してくれてるといいなあ：♡

びるんっ

あゝ先生のオマンコ  
気持ちよかつた♡

ドッ

先生ももう  
結構な歳だよな？

あたしのプリキュア精子で  
妊娠できたらいいね♡  
フフフフっ♡

イッ







## あとがき

栗林クリスです。

この度は本誌をお手にとって頂き誠にありがとうございます。

今更ですが他に描きたいキャラもいなかったの

放映当時から好きだったなおちゃんを描きました。

本当は20代後半のなおちゃんでも描きたかったんですが

新たにキャラデザを考える必要があり、今回は本編の1年後で肉体変化した状態  
という設定に落ち着きました。

機会があれば前述の設定で改めてなおちゃん本を出したいと思います。

次に参加するイベントはふたけつとを予定しています。

その次は当選すれば夏ヨミだと思えます。

今後共サークルGFF、栗林クリスをよろしくお願いします。

栗林クリス

発行日 2014/12/30

発行 GFF/栗林クリス

印刷 ねこのしっぽ

E-Mail [qclinicx@yahoo.co.jp](mailto:qclinicx@yahoo.co.jp)

pixivID 612101

※無断転載・無断複製、及び未成年者の購読・閲覧を禁じます